

山東の風景は

「当たり前じゃない！」宣言

〰 山東盆地 風景づくりガイドブック 〰





1 はじめに

山東盆地って、こんなところです

和歌山市の南東部にある盆地です。

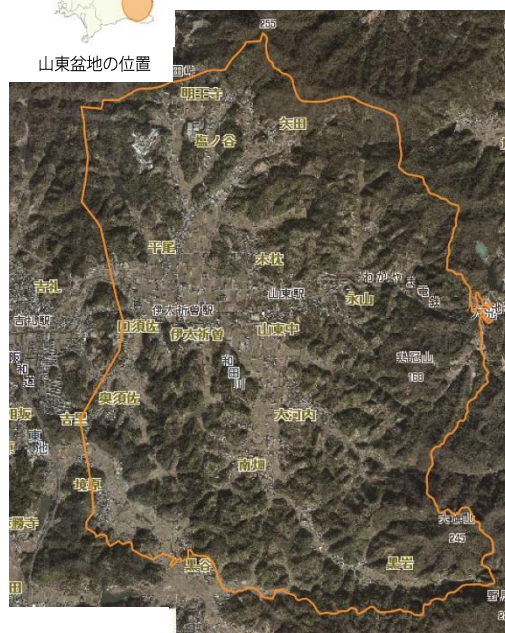
和歌山電鐵貴志川線の伊太祈曽駅と山東駅があり、交通が便利ですが、市内とは思えないほど緑が印象的です。みかん畑や竹林に囲まれて田んぼがあり、どこかなつかしい風景が広がっています。

伊太祈曽神社をはじめ、歴史や見どころもいっぱいです。



山東盆地の位置

対象範囲



「風景づくりガイドブック」ってなに？

山東盆地の風景のいいところを見つめ直し、さらに磨きをかけていくために、大切にすることや取り組んでいくことなどをまとめた冊子です。

地域みなさんが、山東盆地の風景の良さや、景観まちづくりの目標や方針を共有するために役立てましょう。また外から訪れる人たちにも、山東盆地の良さを知ってもらいましょう。

このガイドブックの内容については、これからも地域内外の色々な人の意見をもらいながら、より充実した内容にしていきたいと思います。

ガイドブックができるまで

山東盆地の風景の良さを発見し、風景づくりに取り組んでいくきっかけとするため、山東盆地の風景を考えるワークショップを開催してきました。平成26年7月より、計5回にわたり、公募により集まった地域内外のメンバーで話し合いを行いました。

ワークショップでは、地域の皆さんが山東盆地の風景の資源や課題を出し合い、これから山東盆地の風景づくりをどのように進めていくかについて話し合いました。その中でみなさんの中から出た意見をまとめたのが、この風景づくりガイドブックです。





2 風景づくりの考え方

風景づくりの合言葉

「山東の風景は『当たり前じゃない』宣言」

山東盆地を取り囲む豊かな自然や、各集落の暮らしの中で時間をかけてつくられてきた風景は、わたしたち住民にとっては「当たり前」に存在するものです。

しかし、実は**他にはない特別なもの**で、山東盆地の**風景の魅力のもと**になっているのです。

それをみんなで再発見し、これからも大切に守りさらに磨きをかけていきましょう。

大切にしたい風景

「自然」の風景

緑、川、池などの自然を、大切にしていきたい。

「暮らし」の風景

暮らしの中でつくられてきたものを、大切にしていきたい。



「見どころ」の風景

貴重な歴史・観光資源や、その周りの風景を、大切にしていきたい。

「山東盆地の風景」って、どんなところがいいの？

⇒3ページ

風景を良くしていくために、できることはなんだろう？

⇒6ページ

どういう風に取り組んでいこうかな？

⇒12ページ

3 山東盆地の風景のいいところ

豊かな緑に包まれた盆地

山東盆地は周りを山に囲まれ、田んぼやみかんの木など、みどりがいっぱいです。川や山の中に、魚や動物、虫などがたくさん生息しています。



山に囲まれた盆地

和歌山市内でありながら、今ものんびりとした心地よい風景があります。



竹林やみかん畑

特産のたけのこやみかんを育てるため、斜面には竹林やみかん畑が広がっています。



川やため池などの水辺

川やたくさんのため池は、農業にとって大切な環境であると同時に、魚などの生き物のすみかでもあります。

最近では、新しい家が建ち田んぼの緑が少なくなってきています。また、山や竹林、川、田んぼなどの管理が行き届かなくなってきました。

いっとき一時、違う表情を見せてくれる風景

身近に自然があるため、季節ごとに、また一日のうちでも、風景が移り変わっていきます。絵のように美しい風景の変化を楽しむことのできる、ぜいたくな暮らしがあります。



春

四季の移り変わり

田んぼや裏山のみかん畑は、季節ごとに豊かな実りの風景をつくり出し、また香りを楽しませてくれます。

盆地の周りを取りまく里山では、木々の色が移り変わっていきます。



夏



一日の中の風景の変化

田んぼの稲穂や木々の葉は風にそよぎ、鳥や虫が舞い、刻一刻と風景が変化していきます。

散歩の途中にふと、ため池などの水面から立ち上る朝靄や山なみに沈む夕焼けに気付くこともあります。



秋



豊かで繊細な自然の風景に似合わないような、建物の屋根や壁の色、看板の色も見られるようになってきています。

長い時間をかけてつくられてきた、集落や家のスタイル

農村集落には、長い年月の間につくられてきた特徴的なものがあり、それが風景を「固有な」ものにしています。盆地の気候に合わせたものや、地場の材料を使いつくられたものが、何代にもわたって守られてきています。



集落内の細い道

屋敷の間を細い道が縫うように通っています。



大木と祠

集落の入口や中心には祠や大木があります。



青石の石積み

かつてよく採れた青石が塀や水路などの石積みにふんだんに使われています。



立派な榎の庭木

樹齢100年を超える庭木もあり、家族のように大切にされています。

集落では空き家が見られ始めてきています。
この豊かな空間を未来に受けついでいくことが課題です。

人と人との、心地よいつながり

昔は留守にする時も鍵をかけなかった、というほど人と人とのつながりが濃い地域で、今でも集落の中では、住民どうしのつながりがあります。このような関係の中で風習や伝承が伝えられてきてきました。



初午の餅ほり

毎年恒例の行事には、多くの人が集まります。



地藏盆

身近な行事は、住民が顔を合わせることになっています。



伊太祁曽神社の祭りでの神輿

一時期は伊太祁曽神社の祭りの神輿が担がれなくなりましたが、今はまた復活しました。

つながりがあると言っても、行事や祭りなどの人が集まる機会は減ってきています。
山東盆地を気に入って移り住む人も増えてきているので、新しいつながりや、世代を超えたつながりをつくっていくことが大切です。

風景を活かしたスポットや、大切な神社

地域内外から多くの人を訪れるスポットがたくさんあります。山東盆地を訪れる人に楽しんでもらうため、各地で地域住民によるもてなしの取り組みが行われています。



伊太祁曽神社（いたきそじんじゃ）
木の神様をお祀りしている伊太祁曽神社は、日本書紀に記された歴史ある神社です。

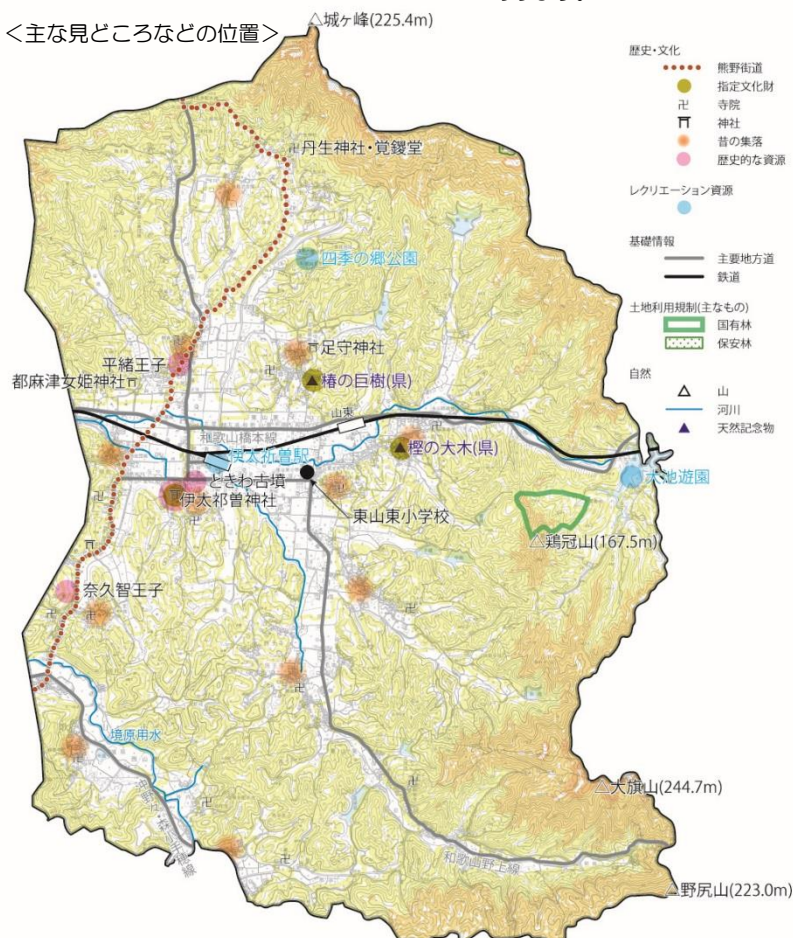


門前町の面影があるまちなみ
伊太祁曽神社の前にはかつて料亭などが立ち並んでおり、今もまちなみの中に門前町の面影があります。



足守神社（あしがみじんじゃ）
中世の時代に水が得にくかった山東盆地で大池の築造を指揮した覺鑊上人が、足を痛めた人のために勧請したという伝承のある神社です。

＜主な見どころなどの位置＞

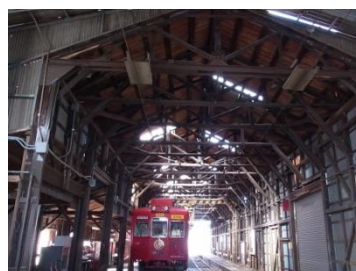


里山に包まれた四季の郷公園
四季の郷公園は、里山の景色をうまく採り入れてつくられています。



手作りのイベント

訪れる人に楽しんでもらうため、四季の郷公園など様々な場所で、イベントや行事が行われています。



和歌山電鐵 貴志川線(車庫)
和歌山市中心部と貴志駅を結ぶ電車で、のどかな田園の中を走ります。伊太祈曽駅には人気者の「ニタマ駅長」(ねこ) がいます。

これらの風景の資源を活かして、訪れる人に山東盆地を楽しんでもらいながら、交流によって住民も元気をもらうことが大切です。

4 風景づくりの5ヶ条

次の5つを心がけて、山東盆地の風景を感じながら暮らし、また育んでいきましょう。

その
1

緑に包まれた盆地の
風景を守る



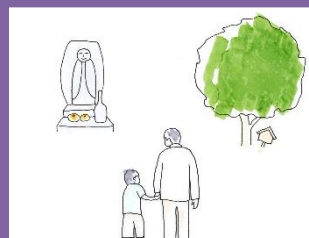
その
2

美味しい風景を
味わう



その
3

地のものを
活かす



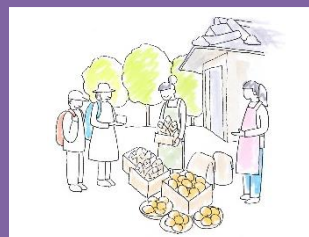
その
4

つながりを
つくりだす



その
5

おもてなしの風景を
磨き上げる



詳しくは、次ページ以降



その 1

緑に包まれた盆地の風景を守る

田んぼ、みかん畑、
里山の、色々な緑が
あるね！



緑を大切に
していきたいな

山東盆地の中は、山の緑、田んぼの緑に包まれています。
貴重な緑を印象付ける、田んぼや山並みを大切に守っていきましょ
う。また、竹林や池、川の手入れなどをしていきましょう。

取り組みのアイデア

家族や近所で

- 生き物のすむ自然を大切にする
- 住民ひとりひとりがゴミの出し方に気を付ける
- 家の周りや気付いたところは掃除をする

集落で

- これからも、貴重な緑を印象づける田んぼや山並みを守っていく
- 今ある田んぼはつぶさないようにして、新しく住むときは空き家を活用してもらう

地域で

- 手入れの行き届かない竹林は、ボランティアの人に協力してもらうなどして維持管理をする
- 盆地であるということをPRするため、「盆地サミット」を開催する



色合いや匂いが、
変わっていくね！

山東に住むって、
ぜいたくなことだなあ



豊かな自然の色合いや匂いによって移り変わる季節に気付き、その風景を味わうのが、山東盆地ならではの豊かな暮らしです。

季節の催しや、農業や自然を体験できる機会づくりなどを通して、季節感をみんなで楽しみましょう。

取り組みのアイデア

家族やご近所で

- 散歩する時や出かける時に、まわりの風景や自然に目を向けてみる
- 自然との関わりを取り戻すため、子どもや親子向けに自然や農業の「体験」の機会をつくる

集落で

- 四季が感じられる風景写真を「山東百景」として集める
- 案山子コンテストやコスモス植えなどの取り組みを継続する
- 春夏秋冬別、ハイキング・ウォーキング・自転車別、ターゲット別等で観光コースをつくる

地域で

- 山東は四季を通していろいろな作物が採れ、農業が続いている場所であるため、山東の作物を「山東ブランド」として、みんなで価値を高めていく
- 農業の風景を続けて行くため、新しい農業の担い手づくりのための仕組みを考える
- 新しい人が住みやすいように、移住の体制を整える



その 3

地のものを活かす



いつも歩いている道でも、よく見たら色々なものがあるね

山東盆地で採れる材料を使いつくられたもの、各家庭や各集落の中で昔から大切にされてきたものなど、特徴的なものがたくさんあり、それが魅力となっています。

これらの「地のもの」をみんなで意識して、次の世代に大切に受け継いでいきましょう。

取り組みのアイデア

家族や近所で

- 昔ながらの青石の石積みや集落の大きな木、お地蔵さん、樹齢 100 年を超える庭木など、ずっと前から大切にされてきたものを、これからも大切にする
- ここにしかない価値あるもの（地のもの）を見つけ出す
- 山東盆地の魅力を、一つながりの「物語」として整理する（住民目線で解釈する、外の人にも伝わりやすくする）



集落で

- 派手な建物や看板は控え、山東盆地に似合ったものにする
- 地域に「似合う」「似合わない」建物や看板はどんなものかを、みんなで考えていく
- 屋敷に木を植えるように呼びかける

地域で

- 山東の名産である竹を使って、駅を飾る
- 「山東盆地らしいもの」を再発見するため、外の人視線で山東盆地の良さを発見してもらうフォトコンテストをする
- 山東のいい風景の写真と文章をセットにして、「日本一短い手紙」のような形で募集する



みんな、集まっていっしょに楽しもう！



わたしたちの「つながり」が見えるのも、「風景」なんだね

道端で立ち話をしていたり、祭りで盛り上がりたりするような、人と人とのつながりが風景を豊かにしています。

祭りに参加し、みんなで盛り上がりながら、地域の取り組みにより多くの人を巻き込んでいきましょう。そうすることで、風習や伝統行事を受け継いでいきましょう。

取り組みのアイデア

家族やご近所で

- 会った人にあいさつをする、みんながあいさつし合うような地域にする
- 親から子へ、郷土料理を受け継いでいく
- おじいちゃん・おばあちゃんに話を聞いて昔の山東のことを知り、愛着を高める

集落で

- 自治会だけでなく、不特定多数の人が集まって交流し、どんなことでも話することができる気軽な場をつくる
- 山東には若い親も住んでいるため、昔から住んでいる人と新しく住んでいる人が交流できるようきかけをつくる
- 風習や祭りをつながりの中で受け継いでいく

地域で

- こどもがお年寄りから「ききがき」をして地域の暮らしを知る
- 小字や地名の由来など、歴史や知恵を掘り起こす



その 5

おもてなしの風景を磨き上げる



見どころが
いっぱい！



山東盆地には見どころがたくさんあり、近年は海外からの観光客も増えています。

産業も元気に、わたしたちも楽しく、訪れる人がリピーターになってくれるように、みなでおもてなしの取り組みをしていきましょう。

取り組みのアイデア

家族やご近所で

- ・オープンガーデンをする
- ・来訪者にトイレを開放したり、採れたてのみかんを食べさせてあげたりする
- ・地域の人同士や来訪者に対して、あいさつ運動をして、暖かく親しみやすい雰囲気をつくる

集落で

- ・農業体験や農家レストランをするなど、山東らしいものを活かして、外の人をもてなす
- ・来訪者にまちあるきガイドをする
- ・山東駅・伊太祈曽駅のまわりを、どんな風景にしていきたいか考える
- ・資源を紹介する案内板をつくる
- ・シャッターポイントや四季の見どころポイントをおすすめする
- ・各戸の軒先・庭先を活用し、地元のものを食べられるような場所をつくる
- ・統一したプランターをそれぞれの庭先に設置し、統一感のあるおもてなしの風景をつくる

地域で

- ・写真や絵、俳句の会などの発表を貴志川線でやってもらう
- ・「～通り」「～小路」など通りに名前をつけて広める
- ・健康増進などのテーマとも組み合わせてPRする



5 これからの進め方

風景のいいと思うところを話してみる



まずは家族で



ご近所で



地域みんなで

風景づくりに取り組んでみる

家族やご近所で

- ・ゴミの出し方に気を付ける
- ・祭りに参加する/協力するなど

集落で

- ・小字や地名、屋号の由来を勉強する
- ・大きな木、お地蔵さんなどを大切にするなど

地域で

- ・「山東百景」を地域外から募集する
- ・農家レストランを開く
- ・農業体験を受け入れる
- ・山東盆地に似合う建物を考える など

地域の外とも連携して

- ・大学や電鉄、行政とも協力しながら情報発信する など

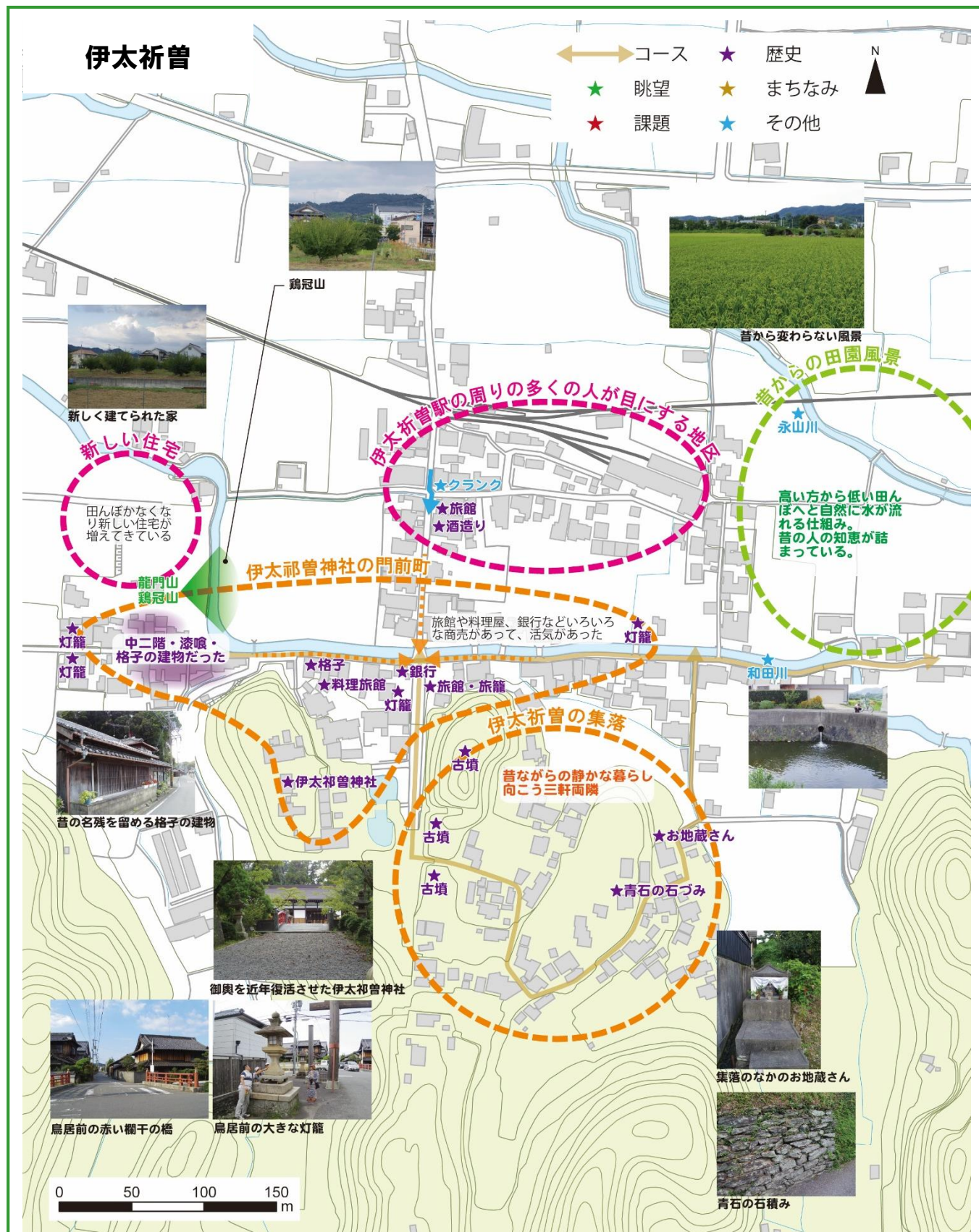
住む人がまちや風景に誇りを感じ

訪れる人も楽しめ

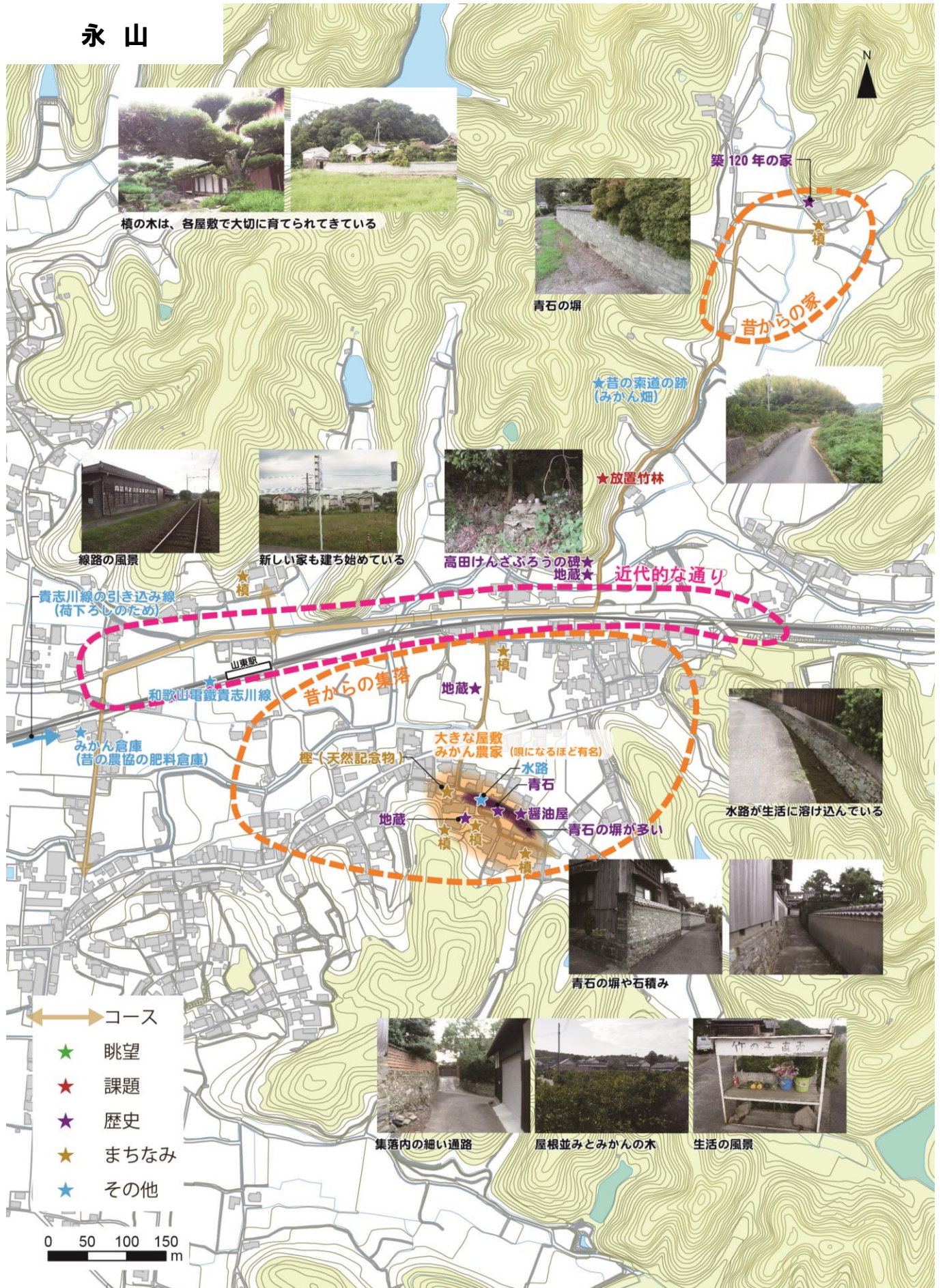
より魅力的な 山東盆地へ

6 風景の「魅力」と「課題」発見マップ

ワークショップの中で、参加者のみなさんが地域を歩き、風景の魅力や課題を見つけました。永山、伊太祈曽、木枕（こまくら）、大河内の集落で発見したことをご紹介します。



永山





大河内



ききがき～昔の暮らしを知り 未来へ受け継ぐ～

子どもの目線から山東盆地の風景の良さやおもしろさを掘り起こすため、地域のお年寄りに昔のくらしの話を聞き、記録する「ききがき」を開催しました。

昔の暮らしの話を聴き、子どもたちは自分たちの生活と重ねながら、「これは今もやっている!」「知らなかった!」など言いながら、感想を新聞としてまとめてくれました。



子どもたちが作った「聞き書き新聞」

お話の内容（一部）

- 学校の校舎は木でできていた
- 伊太祁曽神社の秋祭りの神輿が見事だった
- 子どもの時にはみかんの収穫を手伝い、採ったみかんを担いで山を下りた
- 山では野うさぎを追い、川では蟹を獲った
- ため池の水を抜いて、魚を獲った。それを楽しみにしていた

日程 : 8月25日(月)
開催場所: 東山東小学校
参加者: 東山東小学校の若竹学級の
子どもたち 11名
語り手: 地元のおじいさん



ワークショップの経緯

平成 26 年 7 月から 12 月まで開催しました。

まちあるきをして、風景の資源や課題を探し出しました。また専門家から、山東盆地の風景の特徴や歴史、まちづくりの方法などの話を聴きながら、話し合いを進めていきました。

	一日程一	一テーマ一
第 1 回	7 月 26 日（土）	「自己紹介＆山東のまちや風景について話し合う」
第 2 回	8 月 30 日（土）	「まちあるき＆見つけた風景について話し合う」
第 3 回	9 月 26 日（金）	「山東盆地の風景や成り立ちについて、理解を深める」
第 4 回	11 月 8 日（土）	「山東盆地の「風景づくりの『目標』」について話し合う」
第 5 回	12 月 6 日（土）	「山東盆地の風景づくりの、今後に向けて」



ワークショップに参加したみなさんの想い

いろいろなアイデアが出て、熱心に活動している人もたくさんいるので、後は行動あるのみだと思う。

行動あるのみ

山東の風景を守りたいというみんなの想いに、農業をやることで貢献していきたい。

山東を愛する気持ちが一番重要だと思った。自然豊かなふるさとそのものに価値がある。

あたりまえのものが大切

あたりまえのものが実はとても大切なものだったということがわかった。

この 5 回で終わりではなく、山東が良くなる新しいことを皆さんとまたやっていきたいと思う。



来るたびに山東の良さがわかって良かった。外の人話を聞いたことも良かった。

新しい発見がたくさんあり、人との出会いもあった。

来年度は、もっとたくさんの市民で山東の風景について考え、何か取り組んでいくことができればいいと思う。

すたれてしまったお祭りがいくつかあるので、復活させたい。

水辺の風景を守っていけるよう、機会があれば言っていきたい。

変化が少なく、昔からの習慣も色濃く残っていることを誇りに思う。

守っていく

WE ♥ SANDO !
WE ARE SANDO !

